

■栄光サッカークリニック(第 6 回:実施レポート)

◇日時:2019年11月17日(日)9:30~11:30

◇場所:鎌倉高校

◇参加者:柴野先生、北川先生、千野コーチ、高橋

◇内容:高校新人戦(公式戦)観戦

この試合では栄光の選手は相手チーム鎌倉が格上という意識でのぞんでいる場面が多々見られました。

結果として引き分けで勝ち点1を獲得というのは悪い結果ではないようにも思われました。

しかし後日他チームの結果により次のステージに進むことが出来なかったとの連絡をもらいました。

確かに力のあるチームには負けるリスクを冒さずにゲームを進めていく必要がありますが、この試合ではたとえ守備に偏重しても勝ち点3を狙う姿勢そしてリスクを冒すことが必要であったと感じられました。

例えばセットプレイではリスクを冒してでも人数をかける必要があったのではないかとの感想を持ちました。

特にキャプテンの2番の選手はまだ強くヘディングすることは出来ないがヘディングのポイントに入ってボールに頭を当てられていました。彼が参加することにより直接本人が決めることができなくても他の選手が自由になる可能性がありました。

また後半になると相手チームは GK までポゼッションに参加させゴールを空けるというリスクをとってきました。

この場面でリスクを冒しても高い位置でボールを奪えればガラ空きゴールにボールを流し込むことができるように感じられました。

試合展開では選手たちは失点を恐れていて DF から MF あるいは FW にボールを配給してゲームを組み立てるという勇気がかけていました。

MF も守備を意識してか DF ラインに吸収されていました。そのために FW との距離が離れすぎて3ラインを構成することができず2ラインに近い形になっていました。

特に DF の選手は相手選手ばかり見て仲間のいる位置を確認していません。

守備をしながらも特に FW の位置を見るようにしていれば、ボールを蹴り返す展開になってももう少し FW がボールに絡める展開に持ち込むことができたのではないのでしょうか。

GK ですがキャッチしたボールをバックラインを上げて直接中央に位置するトップの選手に蹴っていました。

相手の CB が強くほとんど跳ね返され広大な DF の背後にあるスペースを相手に利用される危険があり

ました。

このような場合は相手のサイドバックの中のヘディングの弱い選手を選びサイドでFWに競らせポイントを作るなどの工夫が必要です。

また GK はラインを上げた後にボールを落とし足でペナルティエリアの外に持ち出すやり方も習得する必要があります。

相手 FW はこのプレイを防ぐために GK に寄せてきます。

この状況でキックすればたとえ相手にボールを蹴り返されてもFWはオフサイドを回避するためにこちらのゴールに直接向かう動きがとれません。つまり相手 FW の動きをゴールと逆の向きにすることができます。

千野